

モンゴル国の小学校音楽科教育に関する研究

—教育課程における身体表現活動に着目して—

井本 美穂

(岡山理科大学教育学部)

本研究は、モンゴル国の小学校音楽科の教育内容について、2019年に発行された公的ガイドラインである『初等教育カリキュラム』の音楽科に関する記述を分析し、その特徴を明らかにすることを目的とした。特に、音楽科において、身体表現活動がどのように取り入れられているのかについて考察し、モンゴルの小学校音楽科における身体表現の特徴を見出した。モンゴルの小学校音楽科では、身体表現をとおして、音楽的知識を獲得することがめざされていること、身体表現がパフォーマンスとして捉えられ重要な位置づけをされていることが明らかとなった。

キーワード：音楽教育、モンゴル、カリキュラム、身体表現

1. はじめに

本稿の目的は、小学校における音楽科教育で身体表現がいかに取り上げられているかを明らかにすることである。特に我が国ではまだ研究の蓄積の浅い、モンゴル国（以下モンゴル）の小学校音楽科教育に焦点をあてる。

現在、日本の小学校における音楽科の授業では、音楽を聴いて身体で表現する活動が着目されている。現行の学習指導要領においても「音楽との一体感を味わい創造力を働かせて音楽と関わることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」（文部科学省,2018,p.125）と示されており、主に低学年において、音楽を聴取し、動く活動が積極的に実践されている。小学校音楽科における身体表現活動の導入については、様々な論考がある。例えば森保（2020）は、音楽鑑賞教育における身体活動の意義について、「拍」概念の獲得に焦点をあてて考察し、音楽と自己が一体となった聴き方によって主体的な鑑賞が促されることを明らかにしている。桑原（2004）は、音楽科における身体表現活動の意義は、身体をとおしてリズム、旋律、和声、形式、音色、速度、強弱といった音楽の構成要素を知覚・感受し、自己の経験や感情と音楽を重ねることであるとしている。そのうえで、音楽学習における身体表現活動について、音楽の構成要素に対して歩く、手をたたくなどの動きで反応する「身体反応」と、音楽の構成要素が関連し合うことで生み出された曲想、イメージなどを表現する「身体表現」に分類している。安藤（2019）は、音楽学習における身体活動に関する種々の理論を検討したうえで、音楽学習における動きには、模倣を含めた「型」のあるもの、「自由で即興的」なもの、「思考によって生み出される」ものがあることを示している。

一方で、日本の学校教育では、リズム表現を含めて舞踊やダンスといった身体表現に関する分野は体育科に含まれていることから、音楽学習として身体表現活動をどう扱うかが課題であるという指摘がなされている。これに対して、身体表現活動が音楽科教育に位置づけられている国もみられる。その一例として、モンゴルが挙げられる。モンゴルの小学校の教育課程では、リズム活動およびダンスなど、音楽に合わせた身体表現に関する事項は、体育科ではなく音楽科に含まれている。そこで本研究では、モンゴルの小学校音楽科教育において、身体表現活動がどのように位置づけられているのかについて考察する。日本において音楽科教育と身体表現との関わりが注目されている現在、身体表現活動が小学校音楽科教育に含まれているモンゴルの取組みを知ることは、将来的に日本の音楽科教育における身体表現活動のあり方を考えるうえで有効であると考えられる。モンゴルの小学校における音楽活動については、石井（2015,2017,2018）によって小学校の音楽授業の現地調査が行われている。しかし、公的なカリキュラムの内容については扱われていない。そのため本稿ではまず、モンゴルの教育制度と初等教育の目的を概

観した後、モンゴル教育文化科学スポーツ省が公的な教育課程として2019年に発行した『初等教育カリキュラム』（БАГА БОЛОВСРОЛЫН СУРГАЛТЫНХӨТӨЛБӨР, 2019）の音楽科の内容を分析し、モンゴルの小学校の音楽科においてどのような学習がめざされているのかを明らかにする。そのうえで、モンゴルの小学校音楽科教育における身体表現活動の位置づけについて考察する。

2. モンゴルの学校教育制度の概要と『初等カリキュラム』における芸術分野の位置づけ

2.1. モンゴルの学校教育制度の概要

モンゴルは、1924年に社会主義国としてモンゴル人民共和国を建国した。その後1990年代のソビエト連邦（当時）のペレストロイカの影響を受けて自由化を目指した改革が行われ、1992年に国名をモンゴル国へと改め、民主主義体制の国家となった。現行の教育制度は、2012年の教育法により、小学校5年制、中学校4年制、高等学校3年制とし、小学校および中学校を義務教育とする5・4・3制となっている。義務教育である小学校・中学校は授業料が無償、学用品は私費負担である。4学期制で9月から新年度が始まる。就学前教育としては幼稚園があり、2歳から入園することができる。年少（2歳）、年中（3歳）、年長（4歳）、就学準備（5歳）から構成されている。高等教育は、4年制の大学が設置されており、大学院修士課程は1.5～2年間、博士課程は3年間となっている（ルハグワ, 2021, pp.82-84）。

2.2. 『初等カリキュラム』における初等教育の目的および目標

初等教育の目的について、『初等教育カリキュラム』では次のように示されている（モンゴル教育文化科学スポーツ省, 2019, p.9）。

【目的】母国語、国の伝統および文化を学ぶこと、他者を理解し尊重すること、自身の才能・能力を発見し高めること、健康的な生活習慣を大切にする国民となること。

【目標】

- 1) 母国語、伝統的な文化、慣習について知り尊重する、母国を誇りに思う、取り巻く環境を知り、愛し守る、人間の言語や文化を学ぶ
- 2) 才能や興味、能力を発見し磨く、知的な活動を行う方法を身に付け、学習意欲をもつ
- 3) 日常生活において人間関係と倫理を守り、健康的に生活する

音楽科は美術・技術とともに芸術分野として位置づけられている。本カリキュラムでは「芸術（音楽、美術・技術）」「体育」の内容をとおして、身体の発達、美的感覚、創造力、文化や遺産を尊重することをめざすことが示されている（モンゴル教育文化科学スポーツ省, 2019, p.12）。

2.3. 『初等カリキュラム』における芸術分野の目標

『初等教育カリキュラム』における芸術分野の目的および目標は次のとおりである（モンゴル教育文化科学スポーツ省, 2019, p.66）。

【目的】自分を取り巻く環境および芸術作品を認知する方法について知ること、自分の美的感覚および印象を表現し発展させること、文化的な伝統の遺産・慣習を尊重する意思をもつこと。

【目標】

- ・芸術に関する専門用語を認知する
- ・取り巻く環境および芸術作品を解釈し表現する
- ・芸術や伝統的な遺産を尊重したいという気持ちをもつ

また、芸術カリキュラムの実践をとおして、①感受する力（環境や作品に興味をもつ、生活経験で培った自

分の感覚や思考を表現し他者と共有する等)、②実現する力(芸術作品を模倣して自分の作品を生み出す、個人やチームでアイデアを考え、協力して実現する等)、③つくる力(個人的な感情・アイデアを作品をとおして表現する等)、④創造し探究する力(新しい作品をつくるために必要な情報を収集し、収集したデータをもとに方法と素材を選択して使用する等)の4つのコンピテンシーを習得することができるとしている。

3. 『初等教育カリキュラム』における音楽科の内容

表1は、『初等教育カリキュラム』の音楽科の学習内容を表にしたものである。黄色で示した部分は、次項で検討する身体表現に関わる事項である。まずは、音楽カリキュラム全体について考察を行う。

本カリキュラムにおける学習内容は、音楽的な要素を基盤として、音楽能力を身につけるための活動が記されている。日本の学習指導要領のように活動ごとには分類されていないが、記述内容から日本で行われている歌唱、器楽、鑑賞、および音楽づくりにあたる作曲・創作の活動が含まれていることがわかる。加えて、全学年をとおして身体表現に関する項目が設けられていることが特徴的である。

学習内容は、学年別に4期に分けて示されている。各期には音楽を特徴づける要素や仕組みを示したタイトルがつけられており、それぞれの期において重点をおく学習内容が把握できるようになっている。

表1. 『初等教育カリキュラム』音楽領域の学習項目

【1年生】						
1期	自然の音	a. 自然の音の特徴・音色を聴き識別する	b. 歌唱の姿勢・呼吸法を習得する	c. 簡単な楽器の音を聴き識別する	d. 音楽にあわせて動く	e. 簡単な楽器を作り自然の音や動物の鳴き声を表現する
2期	拍、拍子	a. 簡単な曲を聴き、拍を感じる	b. 自分や他者の声を聴き、拍にあわせて歌う	c. 音符の長さ(4分音符, 8分音符)の違いを認知し簡単な楽器で2拍子の曲を演奏する	d. 旋律の特徴を感じながら、動きで表現する	
3期	シンプルなリズム	a. 曲を聴いてその感情を表現する	b. 2拍子・3拍子の曲を聴き、リズムに合わせて歌う	c. 2拍子・3拍子の曲を聴き、リズムに合わせて演奏する	d. 曲を聴き、音色の特徴を動きで表現する	e. 特定のテーマ(馬, 雨など)について、リズムを作り発表する
4期	旋律のリズム	a. 曲を聴き、旋律とリズムの特徴を把握する	b. 歌の意味を理解し、気持ちを表現して独唱や合唱で歌う	c. 2拍子・3拍子の曲に合うリズムを作り、曲と共に演奏する	d. 音楽にあわせて動く際、旋律の特徴、大きさ、リズム、速さ、強弱を感じて自分らしく表現する	
【2年生】						
1期	楽曲の音	a. 人の声を聴き、感情によって声のトーンが変化することに気づき、例を示して説明する	b. シンプルなリズムを音符の高低と結びつけ、音高を示す記号を見て歌う	c. 簡単な楽器を使い、与えられた旋律に合わせて、リズムカルな伴奏をアレンジして演奏する	d. 楽曲のリズムを感じ、音楽的な動きで表現する	
2期	楽音と音符	a. ピッチの高低を識別し、それらを用いて音楽の特徴を識別する	b. G1-C2の音符を五線に記し、楽譜をみて歌う	c. G1-C2の音符について、繰り返す、上がる、下る動きを歌う	d. 2種類の簡単な楽器の音の違いを示す	e. 楽曲の旋律の動きを感じ、音楽的な動きで表現する
3期	旋律の動き	a. 簡単な歌や曲を聴き、音符の高低・長短・曲の方向性や動きについて示す	b. F1-C1の音符を五線に記し、休符のある楽譜を歌う	c. 付点や休符を含むリズムを歌う	d. リボン、棒、旗などを用いて音楽に合わせて動く	e. 旋律を作り、指定された描き方(上がる、下る、繰り返し)で曲を表す
4期	旋律の特徴	a. 楽曲の音色の特徴を特定し、説明する	b. C1-C2の音域の簡単な歌を、歌の内容を理解し、リズム、言葉、表現等をコントロールして歌う	c. 簡単なリズムを書き、演奏する	d. 与えられたテーマ(蝶、花、鳥)で音楽的な動きを考えイメージを表現する	e. 楽曲の旋律に合わせて自由に動く

【3年生】						
1期	曲調	a. 楽器の音色を識別し、楽器をグループ分けする	b. 付点やシンクペーションを歌う	c. リコーダーでG-Hの音域を演奏する	d. 楽曲の旋律およびリズムの特徴について、様々な道具を使って動きで表現する	e. 楽器の音が出る方法を特定し、分類する
2期	速度、強弱	a. 音楽作品を聴いて曲調、速さ、強さの変化に気づく	b. 楽譜から速さや強さの記号を知り、独唱や少人数の斉唱で歌う	c. 速さや強さの記号に気をつけて、G1-D2の音域で演奏する	d. 楽曲の内容、特徴、ストーリーなどを、動きを通して視覚化する	e. 楽曲の旋律の特徴を説明する
3期	音楽の構成	a. 楽曲を聴いて、演奏の構成(独唱、斉唱、合唱)に気づく	b. 歌の繰り返しや変化(韻、サビ、フレーズ)に気づき、独唱、斉唱、合唱で歌う	c. 繰り返しや変化(サビ、フレーズ)に気をつけながら、C1-D2の音域の曲を演奏する	d. 楽曲の旋律の構造を感じ、旋律の推移や変化を動きで表現する	e. 与えられたリズムのバリエーションを開発する
4期	音楽の音域	a. 音楽作品の音色・速度・強弱の変化をもとに楽曲の特徴を明確にし、説明する	b. 歌詞の意味と旋律の特徴について説明し、指揮者の合図で歌う	c. C1-D2の音域で指揮者の合図に従って演奏する	d. 様々な道具を用いて音楽的な動きをつくる	e. 与えられたリズムで様々な分類を作る
【4年生】						
1期	感情と音楽	a. 楽曲の長調・短調の違いを聞き取り、特徴を説明する	b. 長調・短調の簡単な歌や曲を演奏する	c. 長調・短調の簡単な曲をリコーダーで演奏する	d. 楽曲の音色を感じ、感情を表現するために踊る	e. 感情(喜び、悲しみなど)を表現するのに適した音楽を選び、音楽の動きをつくる
2期	音楽の表現方法	a. 音楽作品を聴いて、表現方法の工夫を見つける	b. 選んだ音楽作品について、表情豊かに表現して歌う	c. 簡単な歌や曲を表情豊かに演奏する	d. 楽曲の表現方法の工夫を感じ、動きで表現する	
3期	シンプルな音楽形式	a. シンプルな音楽形式がわかる(AB, ABAなど)	b. 童謡や民謡を応答やフーガの形で歌う	c. 簡単な歌や曲を応答やフーガの形で演奏する	d. 特定のテーマや特徴をもつ楽曲を選び、動きをつける	e. 音楽用語を参考にしてイメージし、表現する
4期	楽曲の特徴	a. 楽曲のシンプルな形式について説明する	b. 楽譜を見て歌の内容や意味を理解し、2声で歌う	c. 簡単な曲の小節・拍子、音量を決めて、2声で演奏する	d. 音楽作品の内容や特徴を、絵や文章などで表現する	
【5年生】						
1期	旋律	a. 楽曲の形式を識別し、分類する(AB, ABA, ABC, A1, A2, A3)	b. 長音階、五音音階のメジャーおよびマイナーで歌い、その違いについて説明する	c. 独唱や2声の合唱で、曲の内容・意味が伝わるように表情をつけて演奏する	d. 特定のテーマ(電車、子守歌など)に従ってリズムを作る	
2期	調性	a. 楽曲の特徴(五音音階、全音階)を聴いて識別する	b. 協和音・不協和音の曲を歌い、その違いを説明する	c. 簡単なダンスの要素を用いて動く	d. 簡単な楽器を使って打楽器の曲を作る	
3期	形式	a. 曲を聴き、特徴(協和音、不協和音、音程など)の違いを認識する	b. 楽譜を見て、カノンや模倣の形について説明し、独唱や少人数の合唱で歌う	c. 楽曲の内容を動きで表現する	d. 与えられた旋律を展開させる、変奏する	
4期	音楽用語	a. 曲を聴き、楽曲のタイプ(声楽、独奏など)を説明する	b. 指揮者に従って速さ、強さを認識し、独唱・合唱する	c. 音楽と動きの関係について説明する	d. 楽曲の和音の特徴を、様々な方法(色、イメージ)で表現する	

*黄色は動きに関する項目

(モンゴル教育文化科学スポーツ省(2019)『初等教育カリキュラム』pp.70-74より筆者作成)

タイトルと項目の内容から、各学年で注力されると考えられる学習は次のとおりである。

1年生では自然の音を聴くこと、および拍・リズムに重点がおかれている。音色の識別は、自然の音からはじめ、人の声のトーンの識別や楽器の音色の識別へと発展している。身の回りの音に親しむことから学習を開始している点は、日本の学習指導要領との類似がみられる。2年生では、楽音の聴取、旋律の音高、および音符の読み書きについて主に学習する。音符の学習はG1音から始め、C2音まで学んだ後に、F1からC1の音符を学習する形となっている。日本での音符の学習はC1から開始されており、この点に相違がみられる。3年生では、曲の音色、速度、強弱、音楽の構成など、音楽に表情をつける要素に着目した学習の展開が志向されている。3年生でリコーダーを用いた楽器演奏が取り入れられている点は、日本と同様である。4年生では、長調と短調の違い、音楽による感情表現、音楽形式の理解と活用に重点がおかれている。5年生になると、旋律および和音の聴取による調性の識別、音楽形式を用いた変奏曲の創作といった高度な内容が含まれている。五音音階と全音階の識別が学習内容に示されている点については、モンゴルの伝統音楽との関連性がうかがえる。モンゴル民謡には五音音階が用いられていることが多く、石井（2018）の調査では、小学校3年生の音楽教科書には五音音階であるヨナ抜き・ニロ抜き音階の曲が89%あったことが報告されている。以上から、自国の音楽を主な教材とし、音楽を特徴づけている要素および仕組みの学習が行われていることが考えられる。

以上の分析により、本カリキュラムでは、音楽的な要素および音楽の構造の理解を音楽学習のベースとし、演奏技能ならびに表現技術を獲得することをめざしていることが明らかとなった。それでは、すべての学年で取り組むことが示されている、音楽を聴取し身体によって表現する活動は、小学校の音楽科教育においていかに位置づけられているのであろうか。次項では、身体表現活動の内容を主眼として考察する。

4. 『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン（音楽）』における身体表現に関する内容

前項で示した『初等教育カリキュラム』に基づいて、具体的な学習方法および指導のポイントをまとめた『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン（音楽）』（БАГА БОЛОВСРОЛЫН СУРГАЛТЫН ХӨТӨЛБӨРИЙГ ХЭРЭГЖҮҮЛЭХ СУРАЛЦАХУЙН УДИРДАМЖ Хөгжим, 2019）が、モンゴル教育文化科学スポーツ省の提携教育機関であるモンゴル教育研究所（Mongolian Institute for Educational Research）によって発行されている。本項では、このガイドラインの内容をもとに、モンゴルの小学校音楽科における身体表現の内容を考察する。

表2は、『初等教育カリキュラム』の身体表現活動の内容について、ガイドラインが示した指導内容を抜粋し、まとめたものである。表内の番号は、『初等教育カリキュラム』で記載されている学年と期に対応させて示している（1.1.d.であれば1年生の1期のd.の項目）。

1年生の1.1に記載された教師への助言から、身体活動をとおして音高に関する感覚およびリズム感覚が発達すると捉えられていることがわかる。また、1年生の初期の段階から、個人だけでなく他者と役割分担をして動く活動を取り入れている。1.2の教師の助言には、動きをとおして身体的な発達を促進すること、児童の自立を促し、自己表現力、創造力を育むことが示されている。これらの記述から、身体表現活動を、芸術分野の目標として掲げられた「実現する力」「創造し探究する力」といったコンピテンシーに関わる事項を達成する手立てとして位置づけていることがうかがえる。音楽スキルの面に目を向けると、早い段階から音色、音の高低、速度、強弱といった多様な音楽要素を感じて身体の動きで表すことが示されている。

2年生では、全体の学習内容として旋律に重点を置いていることをふまえ、身体活動においても上昇・下降および跳躍といった旋律の動きを身体で表現することに力が注がれている。2.4の記述にみられるように、自由に動く際にも、曲を特徴づけている音楽要素に基づいて表現を工夫することを重視している。また、2.3のようにリボン、棒、旗などの小道具を用いて身体表現活動を行う点が特徴的である。

3年生では、音楽の構造（繰り返し、変化など）を中心に、学習内容を構築している。そのため、旋律の移り変わりを感じ取って動きで表現することが示されている。また、3年生からはダンスの要素を取り入れた活動が行われるようになる。

4年生では、4.1にみられるように、音楽から喚起される情動を動きに反映させることをめざしている。この期には長調に加えて短調の学習が含まれていることから、調性から感受した情動を動きで表現することが想定され

る。さらに4.3では、特定のテーマや特徴をもつ音楽に動きをつけるという活動が提示されている。全体の学習項目をみると、4年生の3期には音楽形式を意識して歌唱および器楽演奏をすることが示されている。したがって、身体表現においても、楽曲の音楽形式の特徴に着目して動きを工夫することが考えられる。

表2『初等教育カリキュラム』の身体表現活動に関する学習内容と指導ポイント

1年生	<p>1.1.d. 音楽にあわせて動く(揺れる、回るなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 音楽を聴いて、メロディーの特徴にあわせて動きをつける。 - 他の人とロールプレイをしたり、単独で動いたりする。 - 音楽にあわせて風になびいて落ちてくる葉の動きを作る。 <p>【教師への助言】 ピッチとリズムの感覚は、筋肉組織の活動に関連してさまざまな形で発達する。したがって、子供の発達のために、音楽の動きに基づく手のジェスチャーが導入されている。</p>
	<p>1.2.d. 旋律の特徴や楽曲の強弱を感じながら、動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 音楽を演奏するときは、感情や緊張感を表現する。 - 環境の音と音の特徴(長い、短い、高い、低い、大きい、弱い)を比較する。 - シンプルな旋律の音色、速さ、強さを表現する。 - 歌詞の意味に関して想像したことをリズムで表現する。 - 旋律の特徴とリズムの強弱を感じながら動く。 - 旋律の浮き沈み、繰り返し、跳躍を感じながら、身体の動きで表現する。 <p>【教師への助言】 興味のあること、身の回りの音や映像をもとに動きをつくと便利である。音楽の動きは、リズム感、身体の筋肉の発達、子供たちの自立、自己表現、創造性を養う。実践的な活動に基づいて考えることが重要である。</p>
	<p>1.3.d. 楽曲の音色の特徴を判断し、動きを通してキャラクター(花、動物など)を表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 旋律の特徴とリズムの強弱を感じながら動く。 - 旋律の高低、繰り返し、跳躍を感じ、身体の動きで表現する。 - 他者と一緒に動いたり、単独で動く。 <p>【教師への助言】 リズム感を養うためには、様々なリズムを用いて実践する必要がある。単純なものから徐々に難易度を上げること。</p>
2年生	<p>1.4.d. 音楽にあわせて動くときに、旋律の特徴、大きさ、リズム、速さ、強さを感じて動きを合わせ、自分らしく表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々なリズムにあわせて動く。 - 旋律の特徴的なリズムにあわせて動く。 - 歌のリズム、歌詞の意味、速さ、パワーにあわせて音楽の動きをつくる。 - 音楽の動きをするときは、旋律の性質、音量、リズム、速度、強さを感じて、動きを調整する。 <p>【教師への助言】 練習をするときは、子供たちの発達、活動、聴取、歌、音楽、ダンスへの参加を確実にするために、創造的な方法と形式を伝統的な教育方法と組み合わせる必要がある。</p>
	<p>2.1.d. 楽曲のリズムを感じ、音楽的な動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 音楽遊びを通して動きをコントロールする方法を学ぶ。 - 声のトーンで感情を表現し、役割を演じる。 - ビデオを見て、特定のトピックに従って動きを模倣する(運搬人、木こりなど)。 - 動きを通して楽曲のリズム、速さ、パワー、意味を表現する。 <p>【教師への助言】 音楽を聴く活動を通じて、音楽の旋律・音色・音量・速度・強さを、動きによって表現することができる。</p>
	<p>2.2.e. 楽曲の旋律の動きを感じ、それを音楽的な動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 旋律の方向を見つけ、それに合う動きをする。 - 音楽のリズムにあわせて、道具を使用して動く。 - 曲の意味や旋律の特徴を動きで表現する。 - 旋律の強弱、上昇・下降・跳躍の方向を、道具を用いて動きで表現する。 <p>【教師への助言】 音楽を聴くプロセスでは、子供の集中力、聴覚、リズム感、協調性、動きの調整が必要である。子ども自身の人生経験をもとに、動きで伝えるほうが効果的で面白い。</p>
	<p>2.3.d. リボン、棒、旗などを用いて音楽にあわせて動く</p> <ul style="list-style-type: none"> - 小道具(リボン、棒、旗など)を使って内容やイメージを動きで表現する。 - 旋律のリズム、音色、速度にあわせて音楽の動きをつくる。 <p>【教師への助言】 音楽の動きを行う際は、教師が合図とカウントでリードすることが重要である。</p>

2年生	<p>2.4.d. 与えられたテーマ（蝶、花、鳥）で音楽的な動きを考え、イメージを表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 楽曲の構造を動き（走る、跳ぶ、跳ぶ）で表現する。 - 1人またはグループでのロールプレイで、自分の感情を表現する。 - 音楽の特徴にあわせて絵を描き、動きで表現する。 - 歌や旋律を聴いて、動きで表現する。 <p>【教師への助言】 動く際に、リズム、音色、速度、強弱にあわせて表現するよう注意を払うこと。</p>
	<p>2.4.e. 楽曲の旋律にあわせて自由に動く</p> <ul style="list-style-type: none"> - 楽曲の音色の特徴にあわせて独自の動きを工夫する。 - 動く際は、音楽要素を使用する。 例: 長い拍子と短い拍子、高音と低音、浮き沈み、強弱、速度、音色 - 習った歌の特徴やリズムにあわせて動きをつくり、実演する。
3年生	<p>3.1.d. 楽曲の旋律およびリズムの特徴について、様々な道具を使って動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 道具（旗、棒、リボン、ハンカチ）を使用して、与えられた一連のリズムを動きで表現する。 - 曲のリズムにあわせてスムーズに動く。 - 特定のテーマに従って、音楽のリズムにあわせて動く。 <p>【教師への助言】 音の高低、長短、強弱、速度を感じ、動きを通して旋律の特徴と音色を表現すること、教師の合図にあわせて動くこと、ダンスの要素を正しく実演することを習得する。</p> <p>3.2.d. 楽曲の内容、特徴、ストーリーなどを、動きを通して視覚化する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 曲の意味や旋律の特徴を動きやロールプレイングを通して表現する。 - 様々なリズムにあわせて自由に動く。 - 音楽の上昇・下降を動きで表現する。 - 旋律の方向性を手と体の動きで表現する。 <p>（教師への助言の記載なし）</p> <p>3.3.d. 楽曲の旋律の構造を感じ、旋律の推移や変化を動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 音楽から得た印象をもとに、リズム、音色、速度の組み合わせを工夫して動く。 - 楽曲の特徴を動きで表現する（歩く、跳ぶ、走る、揺れる、加速するなど）。 - 旋律の構造を感じ取り、旋律の移り変わりを動きで表現する。 <p>【教師への助言】 音楽を聴くとき、その内容を文学や詩に関連付けることは、感情を育む効果的な方法である。</p> <p>3.4.d. 様々な道具を用いて音楽的な動きをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> - 道具（旗、棒、リボン、ハンカチ）を使用して、与えられたリズムにあわせて表現を工夫する。 - 音楽を注意深く聴き、交代で様々な道具を用いて動く。 <p>【教師への助言】 面白い曲、軽快な曲、穏やかな曲、悲しげな曲などを選択し、旗、棒、リボン、ハンカチなどの様々な道具を使用して、リズムにあわせた動きを行う。</p>
4年生	<p>4.1.d. 楽曲の音色を感じ、感情を表現するために踊る</p> <ul style="list-style-type: none"> - 音楽の音量、速度、方向を感じて動きをつくる。例: 波、雪だるま、登山など - 基本的なダンスの要素を学ぶ。例: 3/4のワルツ - ビデオを観て民族舞踊と即興舞踊のタイプを理解する。 - 旋律の特徴を動きで表現する。例: 鳥のダンス、オオカミなど。 <p>【教師への助言】 音楽のリズムと旋律にあわせて動きを調整することを奨励する。ダンスを行ううえで、感情と表情を正しく組みあわせて表現することに注意を払うこと。簡単なダンスの動きのビデオを観ることやエクササイズを定期的に行うことが効果的である。</p> <p>4.2.d. 楽曲の表現方法の工夫を感じ、動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 道具の有無にかかわらず、特定のトピックに適したイメージを表現する。 - 音楽から動物のキャラクターを識別し、動きで表現する。 - 特定のテーマ（友情、春）に従って音楽の動きを作る。 <p>【教師への助言】 音楽のリズムを感じ、ダンスの要素を取り入れて動くこと、肩や手の動きを教えること、中途半端な動きを直すことにより、実践的なスキルを伸ばすことができる。</p> <p>4.3.d. 特定のテーマや特徴をもつ楽曲を選び、動きをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> - 有名な歌のリズムを聞いて、動きをつくる。 - 特定のテーマや特徴を表す音楽を選び、動きをつくる。 - 簡単なダンスの要素を用いて動きをつくる。 - 視覚ツールを柔軟に使用する。例: 朝、動物など <p>【教師への助言】 ダンスの要素を用いて動く時、教師は、与えられたテーマに従ってダンスを表情豊かに実践する方法を指導する責任がある。</p>

5年生	<p>5.2.c. 簡単なダンスの要素を用いて動く</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のテーマで踊る。例: ダンスの簡単な要素を学び、音楽にあわせて両手の動きで葉を描く。 - 動きを通して音楽のイメージをどのように表現できるかを理解し、説明する。 - 楽曲の音量、強さ、方向を感じ、音楽にあわせて、与えられた絵に従ってダンスの動きを行う。 - 指示に従って、振り付けられたダンスの動きをする。 - 電子機器を使用して、フォーク、モダンダンスの要素を学ぶ。 - 特定のテーマで踊る。例: 教師の指示のもとで「雪の踊り」の動きをする。 - 音楽にあわせて手、足、体の動きで意味を描きながら、ダンスの簡単な要素を学ぶ。 <p>【教師への助言】 動きを通して音楽の特徴を表現すること、ダンスの要素やエクササイズを正しく行うこと、音楽を聴いてキャラクターを作成すること、作成したキャラクターを洗練できることをめざして指導する。</p>
	<p>5.3.c. 楽曲の内容を動きで表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特定のテーマで踊る。例: 雪、春、蝶などを手、足、体の動きで表現する。 - ソロやグループ、共同作業で踊ることの価値と責任を理解する。 - テーマに適した動きと小道具を使用して、ダンスの内容とイメージを表現する。 - 振り付けをとおして自然や動物のキャラクターを描写する。 - 特定のテーマに沿って、音楽の動きとダンスを行う(鳥など)。 <p>【教師への助言】 小道具の有無にかかわらず、意味、特徴、イメージを表現することができる。ダンスの要素を用いて練習する時、教師は、道具を正しく使い、表現力豊かに演じ、与えられたテーマと指示に従ってダンスを実行する方法を学ぶことを支援する責任がある。音楽のリズムや旋律にあわせて動きをつくることを推奨する。ダンスを実践するうえで、ソロや少人数で感情や表情を表現する指導に注意が必要である。</p>
	<p>5.4.c. 音楽と動きの関係について説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダンスの動きを正しく端正に行う。 - シンプルなダンスの要素を用いて、楽しくモダンなダンスを作る。 - 音楽のイメージが動きによってどのように表現されるかを説明する。 <p>【教師への助言】 児童が授業で聴いた音楽を理解し、徐々にそれを使って創造的に才能を伸ばすのに最適な方法を見つけるためには、教師の側でイニシアチブを取ることが必要である。</p>

(『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン(音楽)』pp.10-48より筆者作成)

5年生になると、振り付けをもとにダンスを演じることが主な内容となる。ダンスの要素が用いられることにより、身体表現を行う際に、手先などだけではなく、全身で音楽を表現することが可能となると考えられる。一方で、自由に創作するというよりは、動きを「型」として捉え、その「型」と音楽とを調和させることに重点をおいて表現するようになる可能性がある。このようなダンスの活動に加えて、これまでの学習の集大成として、音楽のイメージが動きによっていかに表現されるのか、すなわち音楽と身体表現との関係性について説明する活動も含まれている。

指導方法の面で着目されるのは、2.3 および 5.3 の教師への助言にみられるように、児童に任せて完全に自由に動くのではなく、教師がある程度主導して活動を進めることが示されている点である。『初等教育カリキュラム』では、音楽の特徴に「あわせて」動きを工夫することが強調されている。本カリキュラムでは、音楽から得たイメージを漠然と表現するのではなく、音楽を注意深く聴取し、そこで捉えた音楽の特徴を身体表現に適切に反映させることが重視されている。それを実現するためには教師の積極的な支援を要すると考えられる。

5. 『初等教育カリキュラム』および『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン(音楽)』にみられる小学校音楽科における身体表現活動の特徴

以上より、モンゴルの初等教育における音楽科では、音楽と身体表現が密接な関係性を有していることが明らかとなった。『初等教育カリキュラム』の記載内容に基づくモンゴルの小学校音楽科における身体表現活動の特徴として、次の点が挙げられる。

① 身体表現をとおして、音楽的知識を獲得することをめざしている

身体表現活動は、各期で学習する「音楽を特徴づける要素」を体感することにより、その要素と役割を理解することに重点がおかれていることを見出すことができた。そのため、即興的に動くというよりも、音楽を特徴づける要素をつかみ、その特徴を表すために身体のどの部分をどう動かすかなどについて思考する過程が重視されている。さらに、学年が進むにつれて、表現する内容として情感的な側面が加わり、音楽から受けた感情を身体で表現

することがめざされている。

② 身体表現をパフォーマンスとして捉えている

本カリキュラムにおいて、音楽にあわせて動く活動は、単に聴取した音楽の要素を理解する手段として用いられるにとどまらず、パフォーマンスとして重要な位置づけがなされている。それは「ダンスの要素を正しく実演する」「中途半端な動きを正す」などの記述、および小道具やダンスの要素を取り入れて全身を使って身体表現することにもあらわれている。音楽科の授業でダンスの要素を活用した身体表現を実践するためには、指導する教師にも、音楽の特徴を捉える力のみでなく、それぞれの音楽の特徴に合う動きを考案し身体表現する能力が求められる。

以上、『初等教育カリキュラム』および『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン（音楽）』の分析をとおして、モンゴルの小学校音楽科における身体表現活動の内容および方法の一端を明らかにした。その結果、モンゴルでは、身体表現が音楽することの一部として捉えられていることを見出すことができた。しかし、身体表現を行う際に「型」を重視している要因については、解明するに至らなかった。モンゴルには、音楽や舞踊を含む自国の伝統文化を尊重し、継承しようとする強い姿勢がみられる。それは初等カリキュラムの目標にも反映されている。今後、こうした伝統文化および芸術への認識について詳細に調査することにより、モンゴルで身体表現活動が音楽科に含まれている背景が浮き彫りになると考える。今後は、上記の内容を分析すること、実際に音楽科の授業でどのような身体表現活動が行われているのかについて、モンゴル国の小学校での実践を参観し考察すること、および教員養成課程における音楽科に関する授業内容を調査することを課題とする。

本研究は、JSPS 科研費 22K00699 の助成を受けたものである。

引用文献

- 安藤江里 (2019). 「小学校音楽科における身体表現を活用した指導法の考察：リズム活動を中心に」『教育総合研究』3, 101-125.
- 石井哲夫 (2015). 「モンゴル国小学校における音楽の授業」『富山大学人間発達科学部紀要』9(2), 147-149.
- 石井哲夫 (2017). 「モンゴル国小学校における音楽の授業（2）」『富山大学人間発達科学部紀要』11(3), 125-129.
- 石井哲夫 (2018). 「モンゴル国小学校における音楽教育－第3・4学年教科書の内容からの考察－」『富山大学人間発達科学部紀要』13(1), 27-38.
- 桑原章寧 (2004). 「小学校音楽科の身体表現活動におけるカリキュラムの構想」『学校音楽教育研究』8(0), 164-172.
- 森保尚美 (2020). 「舞踊の身体活動を通じた音楽鑑賞に関する質的研究」『日本教科教育学会誌』43(2), 11-24.
- モンゴル教育文化科学スポーツ省(2019). 『初等教育カリキュラム』(БАГА БОЛОВСРОЛЫН СУРГАЛТЫН ХӨТӨЛБӨР).
- モンゴル教育研究所(2019). 『初等教育カリキュラムを実施するためのガイドライン（音楽）』(БАГА БОЛОВСРОЛЫН СУРГАЛТЫН ХӨТӨЛБӨРИЙГ ХЭРЭГЖҮҮЛЭХ СУРАЛЦАХУЙН УДИРДАМЖ, Хөгжим).
- ルハグワ アリウンジャルガル (2021). 「国際基準を目指すモンゴル教育」大塚豊（監修）『アジア教育情報シリーズ1巻 東アジア・大洋州編』一藝社, 82-97.

A Study on Elementary School Music in Mongolia : Focusing on Physical Expressive Activities in the Curriculum

Miho IMOTO

(Okayama University of Science)

The purpose of this paper is to analyze and clarify the teaching content of elementary school music courses in Mongolia by analyzing the description of music courses in the Primary Education Standards, an official guideline published in 2019. In particular, the paper discusses how physical expression activities are incorporated in music studies and shows the characteristics of physical expression in Mongolian elementary school music studies. It was found that in Mongolian elementary school music studies, the goal is to acquire targeted musical knowledge through physical expression, and that physical expression is regarded as a performance.

Keywords: Music Education, Mongolia, Curriculum, Body Expression